私は遭難した。

会津遊一

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
私は遭難した。

【Ｎコード】
Ｎ０１１４Ｉ

【作者名】
会津遊一

【あらすじ】
私と５人の友達は登山中に遭難した。猛吹雪に襲われ、小屋から出る事ができなくなってしまったのだ。食料や毛布もないので、次々に友達が死んでいく。そして最後の友達が死体を食べて生き残る話をする、が……。

私は遭難した。

５人の友達と登山をしていたのだが。

その途中で、猛吹雪に襲われてしまったのだ。

粉のような雪だったので、ゴーグルを付けていても視界はゼロだった。

しかし、幸いな事に。

なんとか吹雪が凌(しの)げそうな小屋を見つける事が出来たのだ。

私達は、これで助かると喜び合い、救助が来るまでここで過ごす事にした。

小屋には何も置いてなかったが、私は大丈夫だろうと楽観的に考えていた。

だが、それから数日経っても、助けが来る事はなかった。

運が悪い事に台風までもが重なってしまったのだ。

私達は、本当に助かるのだろうかと不安で夜も眠れなかった。

夜は死ぬほど寒かったので、友達同士で寄り添って暖め合った。

更に数日後。

友達同士で喧嘩が始まった。

何故こんな所に連れてきたのだとか、食料がないのにどうするんだとか。

そう、私を含めた6人は、お互いを罵り合った。

私達は仲が良かったのに、お互いの事を本気で憎みだしてた。

最後は、小屋の中で同じ空気を吸っている事さえ嫌になっていた。

そんな中。

2人が死んだ。

小屋には毛布がなかったので、どうしても寒さに絶えられなかったようだ。

朝起きたら、氷のように固まっている友達の姿があった。

生き残った私達は、2人の服を脱がして平等に分けた。

その次の日。

また2人が死んだ。

小さな言い争いから、お互いが首を絞めた殺し合いにまでなったのだ。

弱っている私には、顔をダルマのように真っ赤にさせている友達を止める事は出来なかった。

とりあえず、その2人の服を脱がせると、生き残った者で平等に分けた。

その次の日。

最後の友人が、こんな事を言い出した。

「映画とかで遭難した人間が、先に死んだ奴の肉を食べるって話あるよな」

と。

私はゾッとした。

そんな事を考えた友人にではない。

その時、空腹からクゥーと胃が鳴った自分に対してだ。
私は友人に、そんな恐ろしい事は出来ないと言った。
それはまるで、自分に言い聞かせているような気がしていた。

その次の日。
最後の友人が死んでいた。
死体に噛み付いたまま凍死していたのだった。
その顔は満面の笑みに包まれており、とても幸せそうに見えた。
私は服を脱がせると、壁の隙間から風が入ってこないように詰め込んでおいた。

その次の日。
私はもう限界だった。
梅干しのように縮まった胃と、死ぬかもしれないという恐怖で気が狂いそうだった。
あの感情を掻き消すように何度も頭を壁に打ち付けた。

だが、頭に浮かぶのは友人のあの言葉だけで合った。
私は歯を食いしばり、嗚咽(おえつ)を漏(も)らしても耐えた。

その次の日。
私は食べた。

救助が来たのは、その日から更に４日後だった。
私は救急ヘリで輸送され、病院に入院する事になる。
検査の結果、かなり衰弱していたが異常は無かったらしい。
　ただ右手が熱いのですが、と私は往診に来た医者に伝えた。
「アナタには不整脈の予兆がありますので、それが原因でしょう」
そう笑顔で説明してくれた。
その顔。
心配してくれている顔を見た時。
私の中で、何かがぷつりと切れた。

抑えられず、医者に小屋で合った事を全て話した。
友達を食べた事も。
だが。
聞き終えた医者は訝(いぶか)しむ。
「それは変な話ですね。見つかった死体は全て綺麗なものでしたよ。
歯形は一つだけありましたが」
そう説明され、私は混乱した。
それでは、あの雪山での出来事は、どういう事なのだろう。
何が。
どうして。
熱い。
ふと、私は熱くなっている右手を見た。
すると、親指と人差し指の間から、もう一本指が生えていたのだ。
これは誰の指だ。
私はそう呟いて、気絶したのだった。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0114i/

私は遭難した。

2010年11月20日15時05分発行